

The 81st Chubu Branch Biannual Meeting of the Japanese Diabetes Society

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/24331

『学会開催報告』

第81回日本糖尿病学会中部地方会 The 81st Chubu Branch Biannual Meeting of the Japanese Diabetes Society

金沢大学医薬保健研究域 臓器機能制御学 (内科学第二)

八 木 邦 公

平成22年4月17日土曜日、金沢大学医学類教育棟の第1-4講義室を会場として第81回日本糖尿病学会中部地方会が開催されました。当日は肌寒く小雨の降りしきりの中での開催となり、前日や当日朝の準備中は一体どうなるものかと心配していたのですが、それを吹き飛ばすような大盛会で、従来300-400名程度が通例の北陸開催の糖尿病地方会としては記録的な629名の参加者を数えることができました。これは東海地方特に名古屋での開催での参加者数650名にも匹敵する大変な数字です。一般演題も71題とここ数年では最多の応募でした。人数や演題数だけでなく会の盛り上がりも素晴らしく、最後まで熱気に溢れ討論も活発でした。会に参加された方からは“過去最高の糖尿病学会中部地方会であったのではないか”“企画もまるで全国大会のようだ”、“プログラムにカラーを用いたのは大変わかりやすく画期的だ”との声も聞かれ、主催者側としては何かと工夫した甲斐があったと誠に喜ばしい限りでした。

ランチョンセミナーでは、本地方会の会長である金沢大学 内分泌・代謝内科 科長 武田仁勇先生の座長のもと、東京慈恵医大名誉教授田嶋尚子先生に『経口薬による糖尿病治療の新しい流れ』と題しての糖尿病治療全般についてのレビューをテーマにした御講演が行われました。実は会の前日は関東の箱根で雪が降り、当日の東京の予報では雪、と季節外れの寒さで金沢もそのあおりを受けての肌寒さでしたが“雪が降らなくて良かった..”と思っていたのです。それが甘かったようで、秋田から羽田を経由して小松に来られるはずの田嶋先生の飛行機が遅れ続け、ランチョンセミナーの開始を10分以上ずらさざるを得ない事体に陥りました。また参加者数も従来の中部地方会のランチョンセミナーでは200名程度の参加者でしたので、G棟第3講義室にイスを入れて250席を用意し、お弁当も300個用意していたのですが、驚いたことに総て“完売”になり人が溢れるはお弁当が行き渡らず不満は出るわで大わらわでした。急遽別会場に画像配信して2会場でのセミナーにしましたが大人数の中での連絡も困難で、十分なものとはなりません。この運営は反省材料ですが、中部地方会自体が事前登録制とするとか、ランチョンセミナーも医師向けとコメディカルさん向けの二本立てにして整理券方式にするとか、大きく変更すべき時期に来ているのかもしれないと感じました。

今回の地方会では“ミーツ・ザ・スペシャリスト”というセッションを2つ設けました。これが非常に好評であったと思います。一つが医師向けの劇症1型糖尿病の発見者である大阪大学大学院 内分泌・代謝学 講師 今川彰久先生をお招きしての20分のミニレビュー (座長は金

沢大学大学院臓器機能制御学 講師 八木邦公先生) とその後会場に残って戴いての一般演題への質疑応答への参加です。レビューのテーマは『劇症1型糖尿病：最新の話』で比較的稀と考えられていた本症が全国で5000-7000名の症例数を数えているとかエンテロウイルスの関与、新しいバイオマーカーについて等、本当に最新の情報について知ることができました。一般演題への討論ではこの今川先生ばかりが演題毎にコメントするような場面も見られたのですが、他の参加者も引きずられるように討論に参加する流れも見られ、比較のおとなしい質疑応答が多かったこれまでの地方会に比べて活発なものになっていったと思います。もう一つの“ミーツ・ザ・スペシャリスト”のセッションでは金沢大学 医薬保健研究域 保健学系看護科学領域 教授 稲垣美智子先生に『糖尿病療養指導ポイントレッスン』と題しての同じく20分のミニレビュー (座長は金沢社会保険病院 内科部長 兼 代謝・糖尿病センター長 浅野昭道先生) と一般演題への討論をお願いしました。こちらの会場はランチョンセミナーの後も引き続き多数の聴衆が残り、終始立ち見が出るなど文字通り熱気に溢れた会場となっております。

実は糖尿病学会の地方会の中で年2回開催なのは中部地方会だけで、他の地方に比べて各会の盛り上がりや議論も閑散としていて年1回でも良いのではないかと声がかかれておりました。また事実、先述のように政令指定都市名古屋を擁する東海側での開催に比べて北陸では地味な会が多かったのです。今回の成功はそのような消極的な声を吹き飛ばすものであったと思います。丁寧に運営を行い、地道な活動を重ねて広く声を掛けていけばこの地方会を盛り上げることができる、それを示すだけでも重要でした。これもひとえに、十全医学会をはじめ協賛戴きました企業や自治体の方々のご協力の賜物であったと深く感謝致しております。本当にありがとうございました。今後ともよろしく申し上げます。



第81回日本糖尿病学会中部地方会の写真

左上：本地方会会長の金沢大学内分泌代謝内科 科長 武田仁勇先生、右上：ランチョンセミナーの講演者 東京慈恵医大名誉教授田嶋尚子先生、左下：ミーツ・ザ・スペシャリストセッションの講演者 金沢大学保健学系看護科学領域教授 稲垣美智子先生 右下：熱心な討論が終始繰り広げられておりました